

学校教育目標

自ら、学ぶ子 心を伝える子 活動する子 を育てる

目指す学校像・教育ビジョン

- 1 子どもの生きる力を育み、自立と社会参加を目指す学校 【一人一人の可能性を引き出す教育の推進】
- 2 教職員が専門性を発揮し、豊かな教育活動を実践する学校 【学びの機会を保障する教育の推進】
- 3 家庭や地域と連携・協働し、信頼される学校 【地域とともに歩む教育の推進】

教育方針

- 1 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成を図る。
- 2 個性と実態を把握し、子ども一人一人を包み込む丁寧な教育を行う。
- 3 視覚障がいの専門的な知識と経験をもとにした教育活動を行う。
- 4 保有する感覚を最大限活用し、「学ぶ楽しさ・成長する喜びを実感できる」授業・指導を実践する。
- 5 ICT等を活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業・指導改善を図る。
- 6 学部間のつながりと教科等横断的な教育課程の編成・実施・評価・改善(カリキュラムマネジメント)を図る。
- 7 家庭や地域と相互理解しながら、連携・協働した教育活動の推進を図る。
- 8 将来の自立や社会参加を目指し、健康教育・道徳教育・キャリア教育の推進を図る。

経営方針

- 1 子どもの心理的安全性を確保し、安全で安心して学べる教育環境を醸成する。
- 2 道内視覚支援・盲学校と連携し、教育に必要な専門性(特別支援・教科・生活指導)と指導力の向上を図る。
- 3 ICTの積極的な活用を進め、業務の効率化と情報共有化に努める。
- 4 前例にとらわれず、多角的な視点から最適解を見出す組織的な運営を推進する。
- 5 全職員が連携・協働して全ての子どもの教育を担い、チームとして課題解決にあたる。
- 6 家庭や地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。
- 7 道南圏域の視覚障がい教育のセンターとして教育相談、教育支援の充実に努める。
- 8 教育公務員として法令遵守と服務規律を保持し、心身ともに健全な働き方ができる職場環境づくりを推進する。

重点教育目標

一人一人の可能性を引き出し、学ぶ楽しさ・成長する喜びを実感できる教育を推進する

重点経営目標

互いに連携・協働し、ウェルビーイングで円滑な運営を推進する

教育の重点

- 1 心理安全性を確保したうえで主体的に考え判断し、解決する技術と挑戦する態度の育成
- 2 ICTの活用方法を模索し、子どもを主語にした授業と生活指導の充実・改善
- 3 学校・寄宿舍・保護者・関係機関が相互に共通理解を深めた指導・支援の計画と実践
- 4 集団で学ぶ機会の確保とオンラインを活用した交流及び共同学習の推進
- 5 学習・生活に必要な力を身に付け、教育活動全体で行うきめ細やかな自立活動の実践
- 6 自他を尊重し、ともによりよく生きるための心の教育(道徳教育・人権教育)の推進
- 7 人間関係形成、自己理解・自己管理を図った幼稚部から中学部まで系統的なキャリア教育の推進
- 8 地域資源の活用と体験的な学びの機会の拡大

経営の重点

- 1 視覚障がい教育の専門性向上に向けた学舎合同の校内研修の推進
- 2 所属間の状況を共有し、全職員が当事者意識をもって連携・協働する習慣の醸成
- 3 盲学校での教育の魅力・視覚障がいの認知に向けた理解啓発の推進
- 4 職員個々の強みやスキルが活かされ、働きがいを実感できる業務の推進
- 5 互いに業務の進捗や計画などを共有し、同僚等から相談・支援を受けやすい風土の醸成
- 6 危機管理意識を高め、安全かつ安心して学べる危機管理体制を整備
- 7 学校運営協議会との熟議をもとにした、「つながりたい」学校づくりの模索
- 8 視覚障がい教育の推進・充実に向けた地域向け研修会の開催と連携・協働する機会の構築

チーム函盲として全教職員が協働的に取り組む重点

子どもを中心(CORE)に置いて

- 意識(Consciousness)：当事者意識、協働意識、俯瞰的な視点
- 発信(Outreach)：学校の魅力、盲学校の役割、ICTの活用
- 地域(Region)：地域資源の活用、地域貢献、Win-Winの関係性
- 専門性(Expertise)：視覚障がい・他障がいの専門性、授業改善、学校公開

研究主題

視覚障がい教育の専門性維持・継承に向けた取り組み  
～研修を通じた学舎全体の底上げを目指して～

